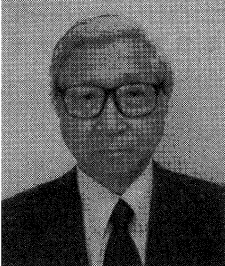


## 第4回 軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展並びに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 菅野幹宏）の審査を経て平成14年3月15日（金）開催の第46回理事会において慎重審議の結果、北岡山治君、千葉文紀君、長 隆郎君、永井修次君の4名の授賞を決定、(株)軽金属学会第102回春期大会第1日目の5月18日（土）に北海道大学において表彰式を挙行了。

受賞者 北岡山治君 日本軽金属株式会社嘱託 昭和16年5月25日生（60歳）

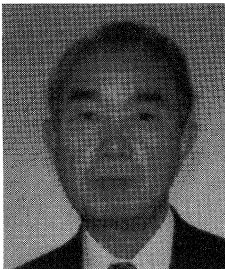


### 受賞理由

北岡山治君は、入社以来一貫して軽金属の溶解、鋳造、凝固および素形材の研究開発に従事して学問的のみならず実用的に貴重な研究成果を挙げるとともに、これを学会にも積極的に発表、活用し、学会の素形材分野における研究をはじめとする各種活動を活性化させた。特に平成7年から12年に実施された「高圧鋳造凝固研究部会」では、当時十分に理解されていなかったスクイーズダイカストに代表される高圧鋳造に関する実態認識を新たにするために、大学、研究機関、自動車メーカ、部品メーカ、鋳造メーカ、材料メーカ等多方面のメンバーからなる研究部会をまとめ、部会長としての重責をこなし、きわめて有意義な部会研究成果を報告、発表した。さらに引続き「高品質・高信頼性鋳物鋳造技術部会」に活動を継続させ、鋳物・ダイカストの高品質化に学会として取り組んでいる。また、学会の対外活動であるシンポジウム、セミナー等の開催を通じて、多くの素形材分野関係者をまとめ、自動車の軽量化の一翼を担う素形材技術の向上に貢献した。その他、編集委員、企画委員、広報委員としても永年活躍している。これら軽金属学会を中心とした学会活動は、学会の対外的評価向上に大いに貢献したものと認められる。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第4回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 千葉文紀君 元 昭和電工株式会社 昭和18年1月2日生（59歳）



### 受賞理由

千葉文紀君は、軽金属学会の諸行事の立案および運営に長期にわたって積極的に参画して、学会の円滑な活動を支えてきた。平成元年より総務委員に就任して、学会運営に対して顕著な実行力を示し、特に、学会法人化に対応するために各種委員会や表彰等の諸規程類の創案やその見直しにおいてきめ細かく協力した。今年度は副委員長として総務委員会の業務遂行に尽力している。軽金属学会秋期大会実行委員を延べ10回務めて、プログラム編成、総会や講演会等の大会運営に対して多大な貢献をしている。軽金属奨励賞および小山田記念賞の選考委員としては、企業における研究成果の実用化を中心とする視点から、貴重な意見を提案して選考に協力した。軽金属に関連する他学協会における活動も顕著であり、日本アルミニウム協会（旧軽金属協会を含む）、金属系材料研究開発センター、軽金属溶接構造協会の各種委員会の委員長や委員を務めて、軽金属学会との連携を円滑にしている。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第4回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 長 隆郎君 名古屋大学名誉教授 昭和11年8月20日生（65歳）

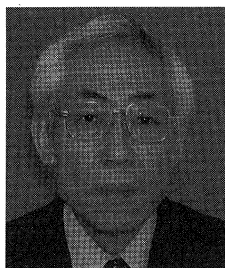


### 受賞理由

長 隆郎君は、永年にわたって複合材料工学の教育・研究に努め、多大な業績を残すとともに軽金属学の発展に貢献した。特に、アルミニウム合金を主体とする軽金属系複合材料の創製にかかわる研究では先駆的な役割を果たし、わが国における複合材料工学の黎明期からその発展に大きく貢献した。その業績は多岐にわたるが、マトリックス金属と強化材料の濡れ性にかかわる基礎研究の成果を基に、溶湯攪拌法による粒子強化複合材料の創製、マトリックス内にて複合強化材を反応合成する in situ 複合材の新創製法の開発、凝固金属の結晶粒微細化用複合母合金の燃焼合成法による創製、鋼/アルミニウム接合用フィラーの開発など、いずれの成果も高く評価されている。これらを始めとする永年の研究業績により、軽金属学会論文賞、日本金属学会論文賞、日本鉄鋼協会西山記念賞を受賞した。軽金属学会の活動に対しては、学会の理事、評議員、研究委員会委員、編集委員、東海支部理事などを務めて、学会運営に尽力するとともに、複合材料部会濡れ性分科会主査、界面制御部会の部会長として、わが国の軽金属学の発展に貢献をした。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第4回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 永井修次君 東京都立工業高等専門学校教授 昭和19年6月28日生（57歳）



### 受賞理由

永井修次君は、平成3年以来現在まで総務委員として積極的に活動し、学会の発展に尽力している。その間平成8～11年には企画委員を併任し、シンポジウム、セミナーなどの企画立案、講演会開催時の世話人として参画している。特に総務委員としては、関東地区開催の秋期大会実行委員を平成3年より10回務め、プログラム編成、会場設営、諸行事等の大会運営に多大な貢献をしている。また、関東地区における秋期大会のみならず、地方で開催される春期大会においても前日の会場設営、最終日の撤去等を行い、春秋大会の開催を下支えしている。また、平成11年より関東支部運営委員として支部運営に積極的に参画している。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第4回軽金属学会功労賞を贈る。